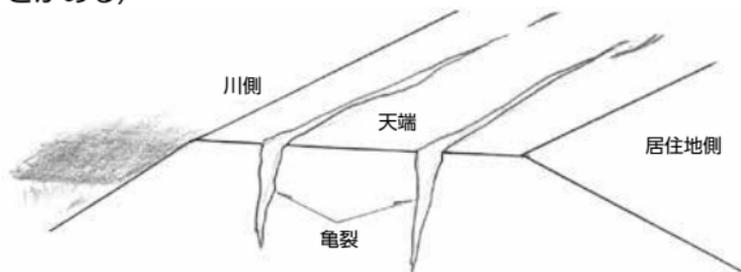


繋ぎ縫い工

1 水防工法

●このような時

堤防が飽和状態になる前に堤防の天端に亀裂が生じた。(堤防天端の亀裂は雨水が流入すると、亀裂が拡がり堤防が決壊することがある)



2 越水対策工

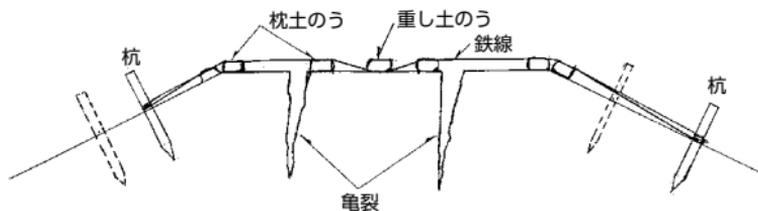
3 漏水対策工

4 漏水洗掘対策工

5 洗掘対策工

●このような効果が

亀裂の拡大を防ぐ



6 決壊対策工

7 亀裂対策工

現地に用意する資材 (演習対応、作業時間19分、作業人員20名)

3筋当たり

- ・土のう・・・・・・・・・・・・・・・・・・7袋/1筋あたり×3筋=21袋
- ・木杭 (φ10cm、1.2m剣付)・・・・・・2本/1筋×3筋=6本
- ・鉄線 (#8番)・・・・・・2m (法長) + 1m (法長) + 6m (堤防幅) + 2m (杭巻きつけ、結束用) =11m/筋×6筋=66m

道具類

- ・掛け矢・・・・・・・・・・・・・・・・12丁
- ・クリッパー (鉄線切り用)・・・・・・2丁
- ・鉄筋緊張用まわし棒 (φ16mm、30cm)・・・・2本/1筋×3筋=6本
- ・シノ (鉄線締め付け用)・・・・・・6丁

繋ぎ縫い工施工手順

①鉄線を張る前に亀裂へ土を詰め込み雨水の流入を防止する。

②杭の打ち込み

杭は上流側から1.5m間隔に打ち込みます。法面方向は川側を2.0m、居住地側は1.0mに打ち込みます。次の杭は川側を1.0m、居住地側は2.0mとなるように、千鳥に打ち込みます。(一定の高さに打ち込むとひび割れの恐れがあります。)

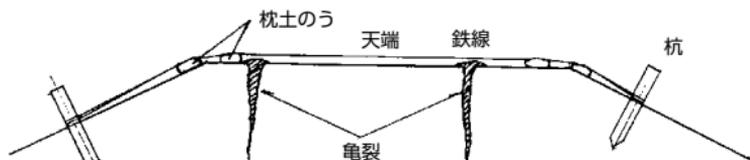
③枕土のうを置く

鉄線を張る前に川側、居住地側法面の法肩へ枕土のうを置きます。

④鉄線を張る

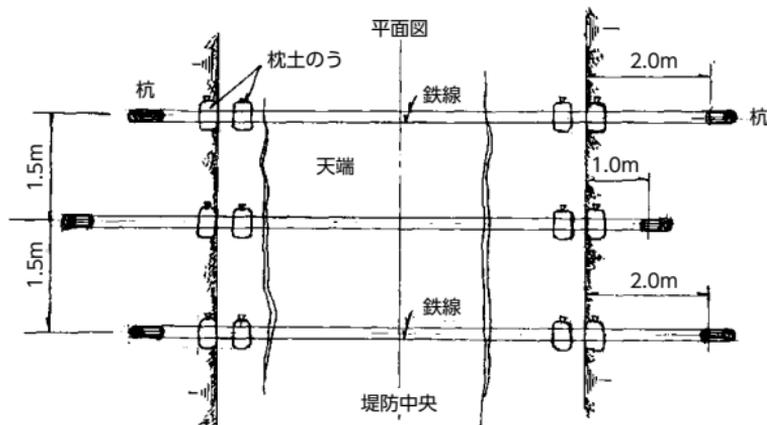
鉄線を杭の根元付近へ2回巻きつけて、一方の杭まで鉄線2条を引っ張り、それぞれの鉄線を杭へ1回巻きつけ、鉄線を3回程度縄をなうようにより合わせる。これをシノで締め上げて固定します。

断面図



○亀裂の部分は、土を詰め込み雨水の流入を防止する。

下図のように上下流方向は1.5m間隔で、千鳥に打ち込みます。

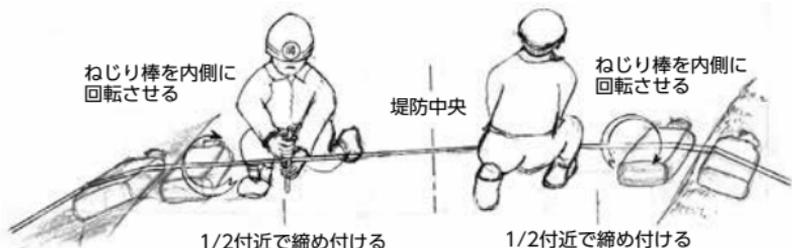


⑤ 枕土のうを置く

鉄線の緊張を確認した後、川側及び居住地側の堤防天端肩と中央2箇所へ枕土のうを押し込みます。

⑥ 鉄線の緊張作業

鉄線の緊張作業は堤防天端の中央を境に、左右ほぼ中間に対面姿勢で、ねじり棒をお互いに内側へ回転させて緊張していく。



⑦ 重し土のうを置く

図のように重し土のうを置き、締め付け効果をはかります。

⑧ 工法実施後、亀裂箇所に雨水の侵入を防ぐ為、ブルーシートで養生することが望ましい。

